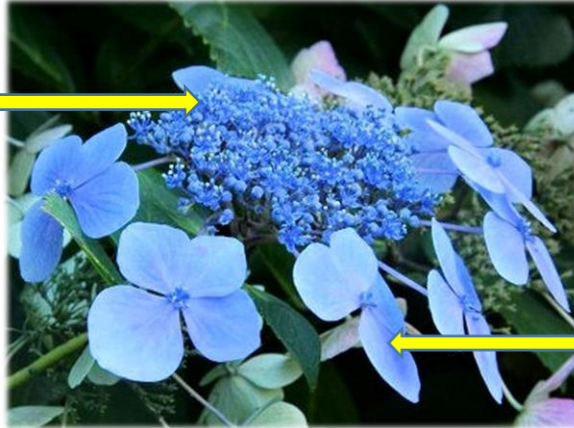


梅雨どきを彩る アジサイ／アジサイ科

ガクアジサイ（額紫陽花） アジサイの原種、日本原産

真ん中の両性花の集まりを 装飾花が「額縁」のように囲むから 額アジサイ ⇒ 額咲き



両性花

小さい粒状の花
花弁・雌しべ・雄しべ
種子は少なく
接ぎ木で増える

装飾花

萼(がく)の変形
真ん中に中性花
花弁はあるが
雌しべ・雄しべは退化
種はない

品種改良により 花色は多彩



アジサイ（ホンアジサイ 紫陽花）

ガクアジサイから品種改良されて 花全体が装飾花になった ⇒ 手まり咲き
日本その他 中国・欧米で さらに品種改良され 園芸品種が多種・多彩



装飾花の中に隠れる両性花



装飾花の真ん中の中性花

＜語 源＞ 集真藍(あづさあい、藍色が集まったもの)が訛ったという説が有力

＜紫陽花＞ 唐の詩人白楽天が アジサイとは別の「陽光に映える紫色の花」を「紫陽花」と詠い 平安時代の歌人が ガクアジサイのことと思い違えてこの文字を当てた のが始まりという

＜花色の変化＞ 土壌から吸収されるアルミニウム・イオンの濃度で 色合いが異なる
土壌が酸性ではアルミニウム・イオンが溶けやすく アントシアニンと結合して青色になり アルカリ性では溶けにくく 赤色になる

酸性度とは別に 開花直後は葉緑素により淡黄緑色 → → 老化して有機酸により赤味